

大田原ボール

大田原ボールとは、楕円型のボール(フラバール)を使用し、バトミントンコートでボールを打ち合う競技です。その形状からボールの行方が予想できず、思いもよらないプレーに笑いの絶えないスポーツです。

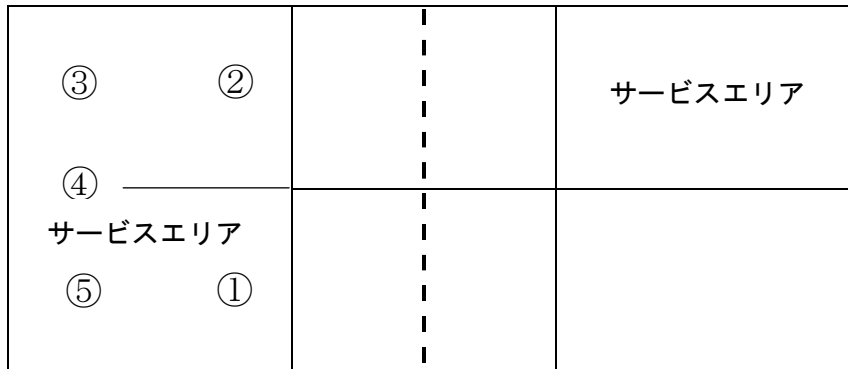
用具

- (1) 変形ボール(フラバール)
- (2) バトミントンコートネット



コート

- (1) コートはバトミントンコート(ダブルス)を使用します。
- (2) ネットはバトミントンネットを使用し、コート面から180cmの高さで水平に張ります。



競技方法

- (1) プレーヤーは、5人で交代人数等の制限は設けません。プレーヤーの交代は、審判に申出れば何度でも可能ですが、レシーバー時のみとします。
- (2) サービス時の基本守備体型は前衛2名、後衛3名で、サーブ後は自陣コート内のどこに動いてもよい。
- (3) ジャンケンなどにより、コート・ボールの権利を取ります。ボールの権利を取ったチームのサーブからゲームを始めます。
- (4) サーブは1本で、前衛の右側のプレーヤーがサービスエリアから行き、必ずアンダーサーブで相手コートに入れます。サーブは、サイドアウトするまでそのチームの同一者が行います。サーバーは、相手チームが失点しサーブ権が移動する際に時計回りのローテーションで行います。
- (5) レシーブは、必ずワンバウンドさせてから、ボールにタッチし3回以内で相手コートに返します。ボールタッチは、足以外ならどこでも構いません。ボールの形状がユニークなため、簡易なドリブルは認めます。また、意図的なタッチネット以外は、身体が相手コートに入っても構いません。
- (6) 勝敗は、15点先取したチームが勝者となります。

その他、次のような場合、チームがサービングチームならサーブ権、レシービングチームなら1点をそれぞれ相手側にあたえることとなります。

- (1) ボールがコート外の床面、物体に触れた時。ただし、ボールの一部が上から見てラインにかかっていたらサーブとします。
- (2) インプレー中にボールがネットの下を通過したとき。また、相手コートに返す際、4打以上タッチした場合。
- (3) 同一プレーヤーが、2度連続して打球した場合(簡易なドリブルは例外)。
- (4) アタックの際、ネットを越えて打球した時。(オーバーネット)